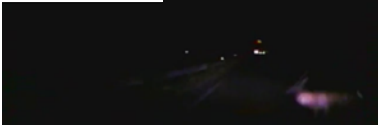


本州でも路面が凍結するところも出てきます。
標高の高い所へ行く際はスタッドレスタイヤに交換を。

スマートフォンでQRコードを読み込むと、DVDと同じ映像をインターネット経由でご覧いただけます。

この用紙は両面印刷でご使用ください。(表)



鹿と衝突



この映像の訴求ポイントは…

- ◎「動物注意」の標識がある道路、特に夕方～朝方は要注意。
- ◎スピードを抑え気味に、上向きライトで早期発見が必要です。



類似の事故防止にあなたが重要と考えられることを書き出してみてください。



想定外の行動でビックリ!



この映像の訴求ポイントは…

- ◎横断歩道の通過は徐行が鉄則です。



類似の事故防止にあなたが重要と考えられることを書き出してみてください。



命知らず!



この映像の訴求ポイントは…

- ◎横断歩道でスピードの遅い自転車は「渡る印」です。
- ◎併走する自転車を見かけたら、飛び出しに要注意です。



類似の事故防止にあなたが重要と考えられることを書き出してみてください。



無茶な割り込みした結果の事故?



この映像の訴求ポイントは…

- ◎車列や車線の無理な横切りは事故の元。
- ◎見えない場所に出る時は見えるまで待つべし。



類似の事故防止にあなたが重要と考えられることを書き出してみてください。



中年オヤジ驚きの信号無視



この映像の訴求ポイントは…

- ◎信号を見ない人はいませんが、見えているとは限りません。
- ◎運転中は運転以外のことを「考えてはならない」のです。



類似の事故防止にあなたが重要と考えられることを書き出してみてください。

【コラム】意識の脇見とは？

皆さんは「意識の脇見」という言葉をご存知でしょうか？

「意識の脇見」とは、目は前を向いていて、よく見えているはずなのに、脳が別のことに気を取られていて、目の前のことを認識できていない状態をいいます。

人間のように複数の作業を並行して行うことができる能力を説明する理論として「注意容量」という概念を用いた考え方があります。多くの人は、あることに注意できる一定の容量を頭の中に持っており、その容量全てをひとつの注意が占めることはありません。ただ、次々に移り変わる交通環境に応じて種々の運転操作を行う必要がある自動車の運転が注意容量の多くを必要とすることは、皆さんも納得していただけるでしょう。

おもしろいのは、人間の脳は経験や慣れによる学習によって、注意すべきことを減らしていけるということ。運転免許を取り立ての頃は、カチコチに身体をかたくして運転だけに集中していたという人も、数年の運転経験を積んだ後では、運転中に携帯電話のハンズフリーで会話もできるぐらい余裕のある運転ができるのはそのためです。しかし、そこには落とし穴があります。

運転中に何か別の作業——例えば考え事やハンズフリーでの会話——などを行うと、本来、クルマの運転に必要な注意容量が別の作業に取られてしまい、結果として運転に必要な注意が不足する状態が生じます。すると、ハンドルを握っていて前を見ていても肝心の信号を見ていない、といった「意識の脇見」が生じます。目では見ているのに脳が見ていないのです。

走行中のカーナビや携帯電話の操作は法律でかたく禁じられていますが、視線を動かさない会話や考え事については、特に禁じられているわけではありません。しかし、現実には、このような「意識の脇見」による事故は少なくないものと思われます。だからクルマを運転中は、運転以外のことをしたり、考えたりしてはいけません。



考え事をして前方に集中していない状態での運転がいわゆる「漫然運転」。

意識の脇見が生じています。